

2018 年度若手研究者共同研究プロジェクト実施報告書

法政大学総長 殿

以下のとおり研究実施報告書を提出します。

基 本 情 報	研究課題名：建築家・大江宏の設計手法に関する研究・一次資料の蒐集分析を通して・
	研究代表者 氏名： 石井翔大
	(在籍者) 研究科・専攻・学年： (修了者) 所属・職種： デザイン工学部建築学科 教務助手
	指導教員(所属・職・氏名)： (※在籍者のみ記入)
	共同研究者(所属・職・氏名)： デザイン工学部建築学科 教授 (※指導教員と同人の場合は記入不要) 安藤直見
	その他 研究分担者：
年 間 の 研 究 実 施 概 要	研究期間： 2018 年度 ～ 2020 年度 (※研究修了年度を記載)
	※研究計画の進捗状況を中心に今年度の研究実施状況を記載してください。 2018 年度は以下の現地調査を実施した。 現地調査その 1 愛知県・岐阜県・京都府を訪問し、大江宏の携わった建築作品 3 作品、および大江に影響を与えた建築の見学調査をおこなった。各都市における具体的な滞在場所を以下に記す。 ・愛知県：「名古屋能楽堂（大江宏建築事務所、1997）」を見学した。大江宏没後の作品ではあるが、当時の所員が大江の作風を継承しつつ、新しい形態言語を用いて発展させている事が確認できた。博物館明治村に出向き、帝国ホテル（フランク・ロイド・ライト、1923）、を見学した。大江が感銘を受けたと語る作品であり、装飾と構造が一体となった意匠は大江と共通点が見いだせることを確認した。 ・岐阜県：「あいおいニッセイ同和損害保険岐阜支店：（旧千代田火災岐阜支店、大江宏、1980）」を見学した。小品ではあるが、大江の作風がファサードのアーチと列柱によく表現されていることがわかった。 ・京都府：「醍醐寺宝聚院収蔵庫（大江宏、1979）」を見学した。収蔵庫をたくみに配置し、大江の父である大江新太郎設計の既存建築に呼応した作品を設計していたことがわかった。 現地調査その 2 ・北海道芦別神社を訪問、乃木神社儀式殿（1951）の部材が複数現存することを確認。実測した。 ・乃木神社を訪問、乃木神社儀式殿（1951）の写真資料を蒐集した。

研 究 業 績	成果発表（学会・論文・研究会等）		
	学会・論文・研究会等の別	タイトル	発行または発表年月
	その他（アピールすることがあればご記入ください。）		